

## はじめに

このパンフレットは、これまで歩んで来た日本の「クリーン・コール・テクノロジー（CCT）」の歴史を振り返り、現状を出来る限り体系的に整理し、次の新しい技術革新に向けた資料として、独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構と財団法人 石炭エネルギーセンターが協力して、作り上げたものである。地球温暖化問題を中心に、石炭利用に対する厳しさが増す中で、日本のCCTが魅力あるものとして理解され、これからのCCTの飛躍的發展と新しい石炭利用システム構築につながることを期待している。

我々がたどったCCT開発の道は、ここに整理された様に、まさに世界最高水準の技術的体系を構築しており、石炭エネルギーに依存するアジア諸国にとっては、本当に魅力溢れるものとなっている。我が国においても、1998年以降の石炭消費量は著しい拡大を示している。火力発電の発電端効率は、ここ10数年で38%程度から41%にまで向上し、火力発電所における発電電力量あたりのCO<sub>2</sub>やSO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>の排出量についても、先進国の中で特に優れた値を示している。これからも、GDPの成長を維持しながら、CO<sub>2</sub>排出量の削減を達成する、経済と環境が両立する世界に向けた、更なる努力がCCTに期待されているのである。

技術革新が追求する世界は無限である。この無限の可能性は、一步一步前進する人類のたゆまない努力と、それをしっかりと積み上げ、その基盤の上に立って人類社会を支えようとする地道な営みによってもたらされるものである。このパンフレットが、これからのCCT開発の参考となることを願い、石炭分野に素晴らしい技術革新がもたらされることを期待するものである。

日本の石炭消費の拡大と経済・環境・エネルギーの推移（1990-2004）

